

室蘭工業大学 さとう かずひこ 佐藤一彦学長 インタビュー

まず、佐藤学長の
経歴を教えてください。

私の大学と大学院の修士課程は本学でした。そして博士後期課程は北海道大学でした。しかし中退をしまして、北海道大学工学部の助手を10年ちよつとやりました。その後は北海道大学の講師になり、1980年に助教授として

室蘭工業大学に来て4年間過ごし、教授になりました。たしか51歳位から副学長を含め管理的な仕事を始めましたね。

どんな大学生活を送っていたのですか？

特に決まったクラブには所属していませんでしたね。当時在学生の80%くらいの規模の大体500人くらいに住む学生寮の自

治をしていました。ですから寮の自治がクラブ活動みたいなものでしたね。食費だけで生活できるようにに大学に要請したりしていました。すべて自分たちで管理するので、大規模な集団の財務などをやるのは頭を痛めるほどではなかったですが笑、結構心を砕きましたね。勉強に関しては、数学に興味がありましたね。専門科目になりますと機械設計の基礎

となる材料力学や、ポンプやエンジンなどを扱う力学を学ぶ機械工学系統が好きでしたね。大学院に進んだ理由は、もう少しこの勉強を続けたいという先どうなるのかなという興味と教授に強く勧められたというのが大きなものです。また、大学を卒業すると同時に大学院ができたというのがあります。

学校づくりに対する理念や気持ちなどをお聞かせください。

一つ目は、理工系の技術者を学生にイメージしてもらい、それになるための基礎となる勉強をしっかりとやれる環境を用意することですね。

二つ目は、学生がこの学校で学んで良かったと思えるような、先生との出会いを大切にしたいです。それによってその後の人生が決まるような気がします。ですから素晴らしい資質と情熱を持った先生が集まってもらえるよう



頑張っています。おかげさまで随分と全国や海外から色々な先生にいらしてもらい、充実してきています。

最後に先生方に研究成果で国際的にも地域貢献・社会貢献・国際貢献をしてもいい、学生にも影響を与えてほしいと期待しています。これらはこの大学が何年も作り上げてきた理念ですね。現代の社会に合わせて絶えずバージョンアップしていきたいという心掛けをもっています。

室蘭工業大学の魅力を
教えてください。

学生がいきいき、のびのびしていることですね。これは一番大事なことだと思います。上位学年になっていくほど自分のやりたいことが見えてきて、自発的にテーマ設定や勉強をやるようになっていきますね。学生のやりたいことがやれる環境設備や実験・研究設備の充実と、生徒が先生にコンタクトをとりやすい雰囲気づくりが

要因にあると思います。またリラクゼーションのために2年前から蘭岳コンサートという演奏会を隔月で行っています。他にも工学のみならず様々な分野のセミナーを3〜4か月に一回開くことになりました。柔らかい雰囲気や質問のしやすいセミナーです。

大学生にどういう風に学生生活を送ってほしいですか？

高等学校では、工学はあまりやらないので不鮮明な部分もあると思います。だから将来の道を一つに決めずに、大学に入ってから決めてもいいと思っています。大

学生生活を通してなにをやりたいかを見つけ、学生時代に必要なことをシミュレートして心構えや知識を作り上げて行って欲しいですね。4年間あるいは6年間で自分を磨き鍛えあげて自信をつけて欲しいです。クラブ活動やインターシップなどの学外の活動でも、社会や人との関わりなどを学んで、フィジカルとメンタルの面で健全でいてほしいです。学長としても良いもの、良いカルチャーに触れてもらえるよう心がけています。

佐藤学長の夢を教えてください。

一番目はこの大学からサイエンスやテクノロジーで国際的な賞の受賞者ができることですね。先生方には期待しています。二番目は本学の卒業生がエンジニアとして国内だけでなく、どこの国に行っても活躍している状態が私の夢です。

(担当 大坂洋介)

